

中学校 第2学年	題材名	リコーダーを楽しもう「涙そうそう」		
	教材名	「涙そうそう」(作曲: BEGIN)	時間	5時間

■題材の目標

アルトリコーダーの音色や基本的な奏法に関心を持ち、それらを生かしながら曲の旋律や雰囲気合った表現を工夫し、思いや意図を持って演奏する。また、2つのパートでアンサンブルをすることにより、全体の響きや各声部の音を聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、美しいハーモニーを奏でることを目指す。

■学習指導要領との関連

A 表現 (2) 器楽 ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり

(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能

【共通事項】音色、リズム、旋律、テクスチャ、強弱

■教材観

「涙そうそう」(作曲: BEGIN)

2000年に発売されたBEGIN18枚目のシングル曲で、翌年には夏川りみがカバーしヒットした。「涙そうそう」とは沖縄の言葉で「涙がぼろぼろこぼれ落ちる」という意味。作詞を手がけた森山良子が亡き兄を思って書き上げた歌詞の世界観や、どこか切なく、どこか懐かしさを感じさせる旋律を、2声のアンサンブルでどのように表現するかがポイントとなる。

サビの部分の主旋律は「ミ・ソ」が連続する運指で少々難易度が高いが、基礎技術を身に付けた上で、旋律やフレーズに合ったアーティキュレーションや息づかい、強弱などを工夫することで、リコーダーの特徴である音色の美しさを表現することを目指したい。また、アンサンブルする上でも副旋律が主旋律よりも高音の部分があるので、各声部の役割を考えながら全体の響きとの関わりを意識して演奏する技能を身に付けやすい教材である。

■ヤマハデジタル音楽教材「アルトリコーダー授業」を使用した指導計画 (5時間)

※既に第1学年でアルトリコーダーの学習を進めていることを前提とする。

	学習内容	めあて	指導上の留意事項
第一時	<ul style="list-style-type: none"> ■アルトリコーダーについての基礎知識を復習する。 ■「涙そうそう」を聴いて曲想を感じ取る。 ■「涙そうそう」を階名唱(固定ド唱法)する。 	アルトリコーダーの基礎知識を復習し、「涙そうそう」の曲想を感じ取ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマハデジタル音楽教材「アルトリコーダー授業」(以下「デジタル教材」と記載)を提示しながら、アルトリコーダーの各部の名称、姿勢、音づくりを復習させる。 ・大型モニター又は各自のタブレット端末でデジタル教材を見ながらタンギングについて復習し、実際にエクササイズの譜例を演奏させる。 ・姿勢やタンギングなどに気を付けながら、第1学年で学習した曲をいくつか演奏させる。 ・「涙そうそう」を聴いて音楽を形づくっている要素を知覚・感受させ、感想をワークシートに記入させる。 ・デジタル教材の伴奏に合わせて「涙そうそう」の主旋律を全員で階名唱(固定ド唱法)させる。

第二時	<p>■低い音の出し方のポイントを復習する。</p> <p>■「涙そうそう」の前半を練習する。</p>	<p>低い音の出し方を意識しながら「涙そうそう」の前半を練習しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低い音に適したタンギングや息の使い方を復習させ、大型モニターにデジタル教材を映して、エクササイズの譜例を演奏させる。 ・大型モニターにデジタル教材を映し、「涙そうそう」の前半に出てくる運指を確認させる。 ・グループ（3～4人）に分かれて各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習させる。 ※前半ができた生徒には後半の練習をさせる。 ・大型モニターにデジタル教材を映し、全員で「涙そうそう」の前半を演奏させる。
第三時	<p>■サミングについて復習する。</p> <p>■「涙そうそう」の後半を練習する。</p>	<p>サミングを意識しながら「涙そうそう」の後半を練習しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サミングをデジタル教材で復習させ、エクササイズの譜例を演奏させる。 ・大型モニターにデジタル教材を映し、「涙そうそう」の後半に出てくる運指を確認させる。 ・グループに分かれて各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習させる。 ※A1パートができた生徒にはA2パートの練習をさせる。 ・大型モニターにデジタル教材を映し、全員で「涙そうそう」を通して演奏させる。
第四時	<p>■アーティキュレーション（4つの奏法）について復習する。</p> <p>■「涙そうそう」のサビ部分の表現を工夫する。</p>	<p>旋律やフレーズに合った表現を工夫して、「涙そうそう」を通して演奏しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティキュレーション（4つの奏法）をデジタル教材で復習させ、エクササイズの譜例を演奏させる。 ・「涙そうそう」を聴いて、サビ部分の表現方法についてグループで話し合わせ、ワークシートに記入させる。 ・グループごとに担当するパートを決めさせ、表現を工夫しながら、各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習させる。 ・大型モニターにデジタル教材を映し、各自担当するパートで「涙そうそう」を通して演奏させる。
第五時	<p>■曲を仕上げ、グループごとに最終発表をする。</p>	<p>曲想を大切にしながらグループで演奏を発表しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに各自タブレット端末のデジタル教材を使ってアンサンブルの練習をさせる。アンサンブルで注意すべき点をワークシートに記入させる。 ・グループごとに発表形式で演奏させる。その際、相互評価させ、自分たちの技能を客観的に捉えたり、表現を工夫したポイントの違いなどを考えさせるようにする。

■実際の指導

[教材]

「涙そうそう」（作曲：BEGIN）

[授業スタイル]

一斉学習、個別学習（ペア学習）、協働学習

[使用する ICT 機器]

大型モニター、教師用 PC（もしくはタブレット端末）、ヤマハデジタル音楽教材「アルトリコーダー授業」

※生徒用タブレット端末があれば個別学習（ペア学習）や協働学習が可能

[主な ICT 活用とそのねらい]

- ✓ デジタル教材を使用することにより、リコーダーの運指など従来では分かりにくかったポイントを視覚的に理解することができ、音源に合わせて弾くことで単純な練習も楽しく取り組むことができる。
- ✓ デジタル教材を使用することにより、テンポ変更や AB リピートを使った部分練習もできるため、自分の苦手な部分を集中して練習することが可能になる。

- ✓ 大型モニターにデジタル教材を映し、それに合わせて生徒に演奏させることにより、教師が机間を回って生徒のサポートをしたり評価したりすることができる。

[展開]

第一時

- ・学習内容：アルトリコーダーについての基礎知識を復習し、「涙そうそう」の曲想を感じ取る。
- ・めあて：アルトリコーダーの基礎知識を復習し、「涙そうそう」の曲想を感じ取ろう
- ・配布物：ワークシート「リコーダーを楽しもう 1」（ファイル名：ra_sheet1）

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 10分	<p>■単元のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">リコーダーを楽しもう「涙そうそう」</div> <p>■本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アルトリコーダーの基礎知識を復習し、「涙そうそう」の曲想を感じ取ろう</div> <p>■最終目標の確認をする。 (「涙そうそう」を通して聴かせる)</p>		★教師用 PC (又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。
50分 展開 30分	<p>■アルトリコーダーの各部の名称について復習する。 (ワークシートに記入)</p> <p>■アルトリコーダーを演奏する時の姿勢について復習する。</p> <p>■アルトリコーダーの音づくりについて復習する。</p> <p>■タンギングについて復習し、エクササイズの譜例を演奏する。</p> <p>■第1学年で学習した曲をいくつか演奏する。</p> <p>■「涙そうそう」を聴いて音楽を形づくっている要素をヒントに、感じたことをワークシートに記入する。</p>	<p>・予備知識 - リコーダーの各部の名称</p> <p>・予備知識 - 姿勢とリコーダーの支え方</p> <p>・予備知識 - リコーダーの音づくり</p> <p>・予備知識 - タンギングについて</p> <p>・エクササイズ - Exercise 3 (時間があれば Exercise 1 も実施)</p> <p>・曲を演奏してみよう - 任意の曲</p> <p>・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「アンサンブル」画面</p>	<p>★教師用 PC (又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。</p> <p>★既に学習した曲を演奏することで、運指やタンギングなどの基本技能を思い出させる。</p> <p>★「涙そうそう」の歌詞を紹介してもよい。</p>
まとめ 10分	<p>■デジタル教材の伴奏に合わせて「涙そうそう」の主旋律を全員で階名唱(固定ド唱法)する。</p> <p>■ワークシートに今日の授業の自己評価を記入する。</p>	<p>・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「アンサンブル」画面</p>	★教師用 PC (又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。

第二時

- ・学習内容：低い音の出し方のポイント（タンギングや息づかい）を復習し、「涙そうそう」の前半を練習する。
- ・めあて：低い音の出し方を意識しながら「涙そうそう」の前半を練習しよう
- ・配布物：ワークシート「リコーダーを楽しもう 2」（ファイル名：ra_sheet2）

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
50分	導入 10分 ■本時の学習のめあてを確認する。 （ワークシートに自分の授業のめあてを記入） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 低い音の出し方を意識しながら 「涙そうそう」の前半を練習しよう </div> ■第一時の復習としてデジタル教材の伴奏に合わせて「涙そうそう」の主旋律を全員で階名唱（固定ド唱法）する。	・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「アンサンブル」画面	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。
	展開 30分 ■低い音に適したタンギングや息の使い方を復習し、エクササイズの譜例を演奏する。 ■「涙そうそう」の前半に出てくる運指を確認する。 ■グループ（3~4人）に分かれて、各自タブレット端末のデジタル教材を使って練習する。 ※前半ができた生徒には後半の練習をさせる。	・エクササイズ - Exercise 7 （時間があれば Exercise 6 も実施） ・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「A1 パート」画面（前半部分のみ使用）	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。 ★各自のタブレット端末を見ながら練習。
	ま と め 10分 ■全員で「涙そうそう」の前半を演奏する。 ■ワークシートに今日の授業の自己評価を記入する。	・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「A1 パート」画面（前半部分のみ使用）	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。

第三時

- ・学習内容：サミングについて復習し、「涙そうそう」の後半を練習する。
- ・めあて：サミングを意識しながら「涙そうそう」の後半を練習しよう
- ・配布物：第二時で配布したワークシート「リコーダーを楽しもう 2」を引き続き使用。

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
50分	導入 10分 ■本時の学習のめあてを確認する。 （ワークシートに自分の授業のめあてを記入） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> サミングを意識しながら 「涙そうそう」の後半を練習しよう </div> ■第二時の復習として全員で「涙そうそう」の前半を演奏する。	・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「A1 パート」画面（前半部分のみ使用）	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。

展開 30分	<p>■サミングをデジタル教材で復習し、エクササイズの譜例を演奏する。</p> <p>■「涙そうそう」の後半に出てくる運指を確認する。</p> <p>■グループに分かれて、タブレット端末のデジタル教材を使って練習する。 ※A1パートができた生徒にはA2パートの練習をさせる。</p>	<p>・エクササイズ - Exercise 9</p> <p>・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「A1パート」画面（後半部分のみ使用）</p>	<p>★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。</p> <p>★各自のタブレット端末を見ながら練習。</p>
	まとめ 10分	<p>■大型モニターにデジタル教材を映し、全員で「涙そうそう」をゆっくりとしたテンポで通して演奏する。</p> <p>■ワークシートに今日の授業の自己評価を記入する。</p>	<p>・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「A1パート」画面</p>

第四時

- ・学習内容：アーティキュレーション（4つの奏法）について復習し、「涙そうそう」のサビ部分の表現を工夫する。
- ・めあて：旋律やフレーズに合った表現を工夫して、「涙そうそう」を通して演奏しよう
- ・配布物：ワークシート「リコーダーを楽しもう3」（ファイル名：ra_sheet3）

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
50分	<p>■本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>旋律やフレーズに合った表現を工夫して、 「涙そうそう」を通して演奏しよう</p> </div> <p>■第三時の復習として全員で「涙そうそう」を通して演奏する。</p>	<p>・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「A1パート」画面</p>	<p>★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。</p>
	<p>■アーティキュレーション（4つの奏法）をデジタル教材で復習し、エクササイズの譜例を演奏する。 （4つの奏法についてワークシートに記入）</p> <p>■「涙そうそう」を聴いて、サビ部分の表現方法についてグループで話し合い、ワークシートに記入する。</p> <p>■グループごとに担当するパートを決め、表現を工夫しながら、タブレット端末のデジタル教材を使って練習する。</p>	<p>・予備知識 - いろいろな吹き方</p> <p>・エクササイズ - Exercise 12</p> <p>・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「アンサンブル」画面</p>	<p>★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。</p> <p>★音楽を形づくっている要素やフレーズ感などの観点から表現の工夫をさせるとよい。</p> <p>★各自のタブレット端末を見ながら練習。</p>

ま と め 10 分	<p>■全員で「涙そうそう」を通して演奏する。 (各自担当するパートを演奏する)</p> <p>■ワークシートに今日の授業の自己評価を記入する。</p>	<p>・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「アンサンブル」画面</p>	<p>★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。</p>
------------------------	--	--	---

第五時

- ・学習内容：アンサンブルで曲を仕上げ、グループごとに最終発表をする。
- ・めあて：曲想を大切にしながらグループで演奏を発表しよう
- ・配布物：ワークシート「リコーダーを楽しもう 4」(ファイル名：ra_sheet4)

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導 入 10 分	<p>■本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>曲想を大切にしながら グループで演奏を発表しよう</p> </div> <p>■第四時の復習として「涙そうそう」をアンサンブルを通して演奏する。</p>	<p>・曲を演奏してみよう - 「涙そうそう」の「アンサンブル」画面</p>	<p>★教師用PC(又はタブレット端末)を大型モニターとつないで提示。</p>
50 分 展 開 35 分	<p>■グループごとにアンサンブルの練習をする。 アンサンブルする時に注意することをグループで話し合い、ワークシートに記入する。</p> <p>■グループごとにアンサンブル演奏を発表する。ワークシートに他のグループの演奏についての感想を記入する。</p>		<p>★各自のタブレット端末に合わせて練習。</p> <p>★演奏前に表現の工夫やアンサンブルの注意点など、こだわりのポイントを発表させるとよい。</p>
ま と め 5 分	<p>■ワークシートにリコーダー授業全体の自己評価と感想を記入する。</p>		